



現行條約ノ不備ト關稅定率法ノ改正

津村，秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 1(3):335-358

(Issue Date)

1906-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051037>



現行條約ノ不備ト關稅定率法ノ改正

神戸高等商業學校教授

津村秀松

(一)

我國ニ於ケル舊條約(安政五年ノ)改正ノ議ハ、早クモ明治四年(一八七一年)時ノ大藏卿大久保利通ノ建議以來、朝野ノ間ニ蟠レル一大輿論ニシテ、又一大難問題ナリキ、井上案、大隈案等悉ク失敗ニ終テ、漸ク明治二十七年(一八九四年)ニ至リ、日英兩國民ノ交誼ヲ進メ、其間ノ和親ヲ厚フセムニハ、須ラク公正ノ主義ト相互ノ利益トヲ基礎トシ、以テ舊條約ノ改正ヲ圖ラザルベカラズトノ意思ノ疎通ヲ來シタルヲ機トシ、同年八月新ニ日英通商航海條約ヲ締結シ、治外法權ハ撤回セラレ、約六十四種ノ物品ニ就キ改メテ協定稅率ヲ約スルニ至レリ。爾來條約改正ノ舉相次デ、各國ニ及シ、一切新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至リタレドモ、多クハ單ニ通商航海ノ自由ト最惠國條款トヲ約スルニ止リ、日英間ノ如ク特ニ協定稅率ヲ約定セルハ、明治二十九年十一月ノ日獨通商航海條約、同三十一年三月ノ日佛通商航海條約、同年九月ノ日澳通商航海條約ノミナリキ。斯クテ其後ノ追加條約ニ日獨間ニ於テハ約五

十九種ノ物品ニ就キ、日佛間ニ於テハ約三十九種ノ物品ニ就キ、日墺間ニ於テハ約八種ノ物品ニ就キ、各々協定稅率ヲ定メタリキ。而シテ此等四箇國トノ改正條約ノ有效期間ニ就テハ、日墺條約ヲ除キ他ハ一切明治三十二年(一八九九年)一月一日ヨリ向フ十二箇年ト定メタリ、之ヲ現行條約トナス。

斯クテ現行條約ハ、公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシテ改正セラレタルモノナリト稱セララル。ザレド夫ハ舊條約ニ對スル比較ノ言トシテハ可ナレドモ、更ニ細カニ現行條約ヲ檢スル時ハ、甚シク不公平ニシテ從テ又甚シク不利益ノモノタルヲ首肯スベシ。其不公平ナリト稱スルハ、

第一、現行條約中ノ協定稅率ハ偏務的性質ノモノニシテ、双務的性質ノモノニアラザルコト。

ニシテ、其不利益ナリト稱スルハ、

第二、現行條約中ノ協定稅率ハ我國ノ主要工業ノ勃興ヲ制壓スルモノナルコト。是レ也。以下之ヲ説明セム。

曩キニ述タルガ如ク、現條行約ハ日英間ニ於テハ六十四種、日獨間ニ於テハ五十九種、日佛間ニ於テハ三十九種、日墺間ニ於テハ八種ノ物品ニ就キ各々協定稅率ヲ

約定スルモノ也。而シテ協定稅率ノ制定ニ關シ、眞ニ公正ノ主義ト相互ノ利益ノ基礎ノ上ニ立シメムト欲セバ、須ラク雙務的協定稅率ノ制定ニ依ラザルベカラズ。協定稅率ハ宜シク互惠的性質ノモノタラザルベカラズ。然ルニ今、現行條約ニ於ケル協定稅率ヲ檢スルニ、最後ニ締結セラレタル日墺條約ヲ除クノ外、悉ク偏務的性質ノモノタルヲ發見スベシ。即チ日墺追加條約第一條ニ椽レバ、墺太利洪牙利帝國ノ生産若クハ製造ニ係ル左ノ物品ニハ、日本國ニ輸入ノ際左ノ稅ヲ課スベシトシ

品目

從價稅率

一、庖厨用具、四鉢竝ニ沕藥ヲ施シタル其他ノ鐵板及鋼板製ノ器具 (彩色シ若クハ彩色セサル)	百ニ付十
二、ランプ各種竝ニ金屬製若クハ玻璃製ノ部分品及附屬品	同 十
三、曲ケ木製家具類(各種ノ)	同 十
四、珠玉、金銀細貨類(假製ノ)	同 十
五、鈕釦類(各種ノ)	同 十
六、玻璃製品、クリスタル玻璃及玻璃類(窓玻璃ヲ除ク)	同 十
七、殺蟲粉	同 五
八、馬	無 稅

次ニ日本國ノ生産若クハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ墺太利洪牙利國ニ輸入ノ際

左ノ輸入稅ヲ課スベシトシ、

品 目

(百キログラムニ付金貨フロリンノ稅率)

一、蠶繭及未タ絲ニセザル屑物	無	稅
二、生絲(繰リタル又ハ捻リタル)	無	稅
三、絲屑物(生ノ)	無	稅
四、純絹布類(無地ノ)	二百フロリン	
五、麥稈サナダ(各種平紐ノ形ヲナシタル但他物ヲ交ヘサル)	二フロリン	
六、壁紙	十八フロリン	
七、磁器		
第一、白地ノ	五フロリン	
第二、着色シタル、緣取シタル、描キタル、形付ノ及鍍金若ハ鍍銀シタル	十フロリン	
八、生銅(古銅ノ斷片及屑トモ)	無	稅

斯クテ雙方互ニ讓歩シテ、互ニ協定稅率ヲ定メ、完全ナル對等條約ヲ締結セリ。

然ルニ日英間ノ六十四種ノ協定稅率、日獨間ノ五十九種ノ協定稅率、竝ニ日佛間ノ三十九種ノ協定稅率ハ、皆是レ英吉利、獨逸、若クハ佛蘭西ノ生産若クハ製造ニ係ル物品ノ我國ニ輸入ノ際課スベキ協定稅率タルニ止リ、此ノ如キ我國ノ讓歩ニ對スル當然ノ報酬トシテ、我國ノ生産若クハ製造ニ係ル物品ノ此等ノ諸國ニ輸入ノ

際課スベキ協定稅率ニ關シテハ何等ノ約定ヲ見ザルナリ。勿論此等三箇國中英吉利ノ如キハ、夙ニ自由貿易主義ヲ奉ジ、其輸入稅目ノ如キハ、茶、コーヒ、葡萄酒、煙草等僅々十數品ニ過ギザル國ナレバ、我國ヨリノ輸入品ニ就キ特ニ協定稅率ヲ約スルノ餘地アラザルベク、從テ日英間ニ於テハ此ノ如キ偏務的協定稅率ノ規定モ其實不公平ノモノニハアラザルベシ。サレドモ獨逸ノ如キ將又佛蘭西ノ如キハ世界有數ノ保護貿易國ニシテ、其國定稅率ノ高ク且ツ廣キニ及セルコト到底英吉利ト同日ノ論ニアラザルベシ。サレバ獨逸ニ對シテハ生糸、羽二重、樟腦、雜貨ノ如キ、佛蘭西ニ對シテハ、生絲、羽二重、熨斗絲、生皮、苧類ノ如キ、我國ヨリノ重要輸出品ニ就キ、協定稅率ノ規定ヲ承諾セシメ置ザルベカラザリシ也。然ルニ現行條約ニ於テハ何等此ノ種ノ規定ナシ。是レ吾人ガ現行條約ノ協定稅率ヲ以テ偏務的性質ノモノト斷ジ、曩キノ條約改正ハ未ダ我國ヲシテ完全ナル對等ノ地位ニ進メタルモノニアラズト難ズル所以也。

次ニ此ノ如キ不公平ナル現行條約ハ又甚シク不利益ナル條約タルベシ。新興ノ工業國トシテ其發生發達ヲ保護獎勵スベキモノ多々アルベシト雖モ、就中製鐵業、製銅業、精糖業、製紙業、窓玻璃業、毛織物業等ヲ以テ其最ナリトス。然ルニ我國ニ於テ

已往四十年間此ノ種ノ工業ノ未ダ十分ノ發達ヲ遂ゲズ、又全ク發生スルニ至ラザル所以ハ何ゾヤ、技術ノ幼稚、資本ノ不足等之ガ原因ヲナスモノ一ニシテ足ラザレドモ、外國品ノ競争ハ確カニ其有力ナル一原因タルヲ失ハザルベシ。而シテ此等ノ工業ニ關シ外國ノ競争ヲシテ有力ナルモノタラシメタルハ、實ニ現行條約中ノ協定稅率ニ在テ存ス。今、日英間ノ協定稅率六十四種、竝ニ日獨間ノ協定稅率五十九種中、上記ノ工業ニ關スル製品ノ輸入稅率ヲ見ルニ左ノ如キモノアリ。

品名	從價稅率	
	日英條約	日獨條約
一、條鐵、條鋼、竿鐵、竿鋼、板鐵、板鋼	百ニ付 七半	同 上
二、軌條		百ニ付 五
三、鐵釘	同	同 上
四、電線	同 五	同 上
五、精糖	同 十	同 上
六、紙類		百ニ付 十
七、窓玻璃片		
甲、無色及無着色ノモノ	同 八	同 上
乙、有色、着色、若クハ砂磨ノモノ	同 十	同 上
八、毛織物		百ニ付 十

サレバ現行條約ノ有効期間ハ如何ナル場合ト雖モ、同種ノ物品ニ對スル内地消費稅ヲ引上ザル限リ、此等主要輸入工業品ニ對シ五分乃至一割ノ低稅ヲ引上ル能ハザル也。而モ此ノ如キ工業品ニ對シ五分乃至一割ノ低稅ハ到底此ノ如キ工業ノ發生若クハ發達ヲ助クルノ力アラザルベシ。ソレモ此等ノ低稅ニシテ獨リ英獨二國ヨリノ輸入品ニ適用スルニ止ルモノナレバ、左迄ノ打撃ヲ被ラザルベキモ、方今我國トノ條約國ハ大抵最惠國條款ヲ約定シアレバ、英獨ニ對スル此ノ如キ讓歩ハ、廣ク各國ノ均霑シ得ル所ト成リ、其效力ハ一般的ノモノトナリタレバ、我國ノ工業ハ四面ニ敵ヲ受ケ十分ノ發生若クハ發達ヲ遂ゲ能ハザリシ也。

要之スルニ、現行條約ハ單ニ關稅政策上ヨリ見ルモ上記二個ノ缺點ヲ免レザル也。サレバトテ現行條約有効期間ハ如何トモ爲シ難ケレバ、條約滿期ノ上之ヲ改正スルノ際ニ於テ、此等ノ缺點ヲ補ヒ、眞ニ公正ノ主義ト相互ノ利益ノ基礎ノ上ニ、完全ナル對等條約ノ締結ヲ望マザルヲ得ズ。幸ニ現行條約ノ有効期間モ其過半ヲ過ギ、來ル明治四十三年（一九一〇年）十二月末日ヲ以テ滿了スベケレバ、今日ニ於テ之ガ改正案ノ内容ヲ審議シ置クハ、我國ニ於ケル一大急務タルヲ失ハザルベシ。本年春第二十二期帝國議會ニ於テ、政府ハ一方ニ於テ關稅率定法ノ改正案ヲ提出シ、他

方ニ於テ關稅調查委員會費ヲ請求シタルハ、此點ニ於テ寔ニ機宜ヲ得タルノ處置ナリト謂フ可シ、蓋シ關稅定率法ノ改正タル事全ク國法上ノ問題ニシテ條約上ノ問題ニアラズ、國定稅率ノ改正ニシテ協定稅率ノ制定ニアラズ、サレドモ何レノ國ニ於テモ國定稅率ハ常ニ協定稅率ノ基礎ヲ造リ、關稅定率法ノ改正ハ其國將來ノ關稅政策上ノ主義ヲ確定シ、合セテ之ヲ豫メ内外ニ告白スルモノナレバナリ、サレハ今ヨリ進デ今回ノ關稅定率法改正ノ理由、其議會ニ於ケル經過、竝ニ其内容ヲ詳述セムトス。

(二)

本年春三月二日、政府ハ關稅定率法改正案ヲ第二十二期帝國議會ニ提出ス、本案ハ全文十二條外ニ別表トシテ輸入稅表品目五百三十八(細目ヲ除キ)ヲ添ヘタリ、今其理由書、政府委員ノ議會ニ於ケル答辯竝ニ委員會ノ報告ニ據リ、先ヅ其改正ノ理由ヲ窺フニ

第一、在來ノ關稅定率法ハ新條約ノ實施ニ先チ、明治三十年ニ於テ制定セラレタルモノニシテ古キニ失スルノミナラズ、又未ダ盡ササル處アルヲ免レズ、殊ニ爾來外國貿易著シク發達シ、内地產業上其面目ヲ革メタルヲ以テ、稅目ノ分類

稅率ノ有無輕重ノ如キ、我國商工業ノ進步發達ニ伴ハザルモノ多クナリ、サレバ此際關稅定率法ノ全部ヲ改正シ、以テ國勢ノ發展ニ應ズルノ切要アルベシ

第二、在來ノ關稅定率法ハ上記ノ如ク、疎漏且不公平ノ弊ヲ免レザルモノナルニ日露戰爭中ニ或種ノ物品ニ限り更ニ之ニ非常特別稅ヲ附加シタレバ、愈々疎漏且不公平ノ程度ヲ嵩メ、益々稅率ノ繁雜ヲ喚起セリ。サレバ戰後非常特別稅ノ整理ヲ爲スト同時ニ關稅定率法全部ノ修正ヲ行フノ要アルベシ。

第三、戰後國費多端ニシテ歲入ヲ増加スルノ必要アリ、然ルニ我國ノ關稅收入ハ之ヲ他外國ニ比シ太々劣レルアルヲ見ル。サレバ此際關稅率ヲ變更シ國家歲入増加ノ一助ト爲スノ要アルベシ、

第四、我國產業ノ發達ヲ助ケムガ爲メ、可成原料ノ輸入ヲ容易ナラシメ、可成製造品ノ輸入ヲ困難ナラシメ、而モ原料品、製造品ヲ通ジテ我國產業ニ對シ競爭ノ地位ニ立ツモノハ、特ニ重稅ヲ課シテ以テ內國產業ノ勃興ニ助力セムトス。

第五、現行關稅定率法ヲ改正スルモ、現行條約有效期間ハ其有效ノ範圍狹小ニシテ其實施ト同時ニ直チニ完全ナル效力ヲ有スベキハ、清韓其他協定稅率若クハ最惠國條款ヲ約定セザル諸國竝ニ無條約國ヨリノ輸入品ニ對シテノミナ

レドモ、豫メ我國將來ニ於ケル國定稅率ヲ確定シ置キ、後日條約改正ヲ爲ス際ニ於ケル、談判上ノ基礎ヲ作り置クノ要アルベシ。

トイフニ在リ。次ニ改正案ノ議會ニ於ケル經過ヲ通覽スルニ、大體ニ於テ原案ニ決シタレドモ、衆議院ニ於テ修正ヲ施シタル種目モ亦尠カラズ、殊ニ議論ノ多カリシハ、

第一、砂糖稅中第二種糖ノ稅率引上說

第二、米及粳ノ課稅說

第三、印刷料紙ノ一部稅率引下說

是レナリ。砂糖稅中第二種糖(粗製糖)ハ原案ニ於テ百斤ニ付キ貳圓貳拾五錢、從價四割ノ輸入稅ナリシガ、關稅調查委員會ニ於テ討議中、一部砂糖業者ノ間ニ之ガ稅率引上ノ運動起レリ。元ト現行ノ關稅定率法ニヨレバ、砂糖ノ國定稅率ハ粗製糖從價五分精製糖從價二割ナレドモ、英吉利並ニ獨逸トノ協定稅率ニヨリ精製糖ハ從價一割ニ下リ、又前年衆議院ノ建議ニ基キ粗製糖ヲ輸入シテ精製糖ト爲ス場合ニハ戻稅スベキコト、ナリ居レリ。此ノ如キ戻稅ノ制度ハ政府モ希望セザル所ニシテ滿期日タル明治四十年ニ至ラバ之ヲ廢棄セムトノ意向ヲ洩シ居ルノミナラズ、

此回ノ關稅定率法改正案ニ於テ、精製糖ハ從價五割、粗製糖ハ從價四割ト迄其稅率ヲ引上ゲ居ル也。然ルニ關西ノ某砂糖業者ハ多額ノ粗製糖ノ見越輸入ヲ爲シ、稅率ノ引上ニヨリ一舉ニ暴利ヲ貪ラムトノ野心ヨリ、名ヲ内地糖業ノ保護ノ必要ニ藉リ切りニ政黨間ニ秘密運動ヲ試ミタリキ。政友會ノ如キモ爲メニ動サレテ黨議ニヨリ原案貳圓貳拾五錢ヲ參圓ニ引上ルコトヲ可決シ、政府ト交渉ノ上貳圓五拾錢迄引上グ可キコトヲ承諾セシムル迄ニ至レリ。サレドモ現在我國ノ糖業未ダ振ハズ、爲メニ細民ノ常用タル粗製糖(黑砂糖、赤砂糖)ハ大分ヲ輸入ニ抑クノ有様ナレバ、此上其輸入稅ヲ引上ゲムニハ、一部巨商ノ利益ノ爲メニ一般下民ノ生計ヲ困難ナラシムルノ弊害ヲ免レズ、サレバ政友會ノ修正意見モ其奏功ヲ見ズシテ、幸ニ原案ノ儘ニテ議會ヲ通過スルコト、ナレリ。

次ニ米及粃ハ從來無稅ナリシカ、日露戰爭中非常特別稅ノ一トシテ新ニ從價一割ノ課稅ヲ斷行セリ。然ルニ此回政府ハ關稅定率法改正案ニ於テ再ビ無稅トナシ但同案第十二條ニヨリ米及粃ニ限リ當分非常特別稅(從價一割)ヲ繼續スト規定セリ。然ルニ衆議院委員會ニ於テ之ヲ修正シ、他ノ物品ト同ジク非常特別稅ヲ廢スル代リニ、原則トシテ有稅品ニ改メ、永久ニ從價一割五分ノ課稅ヲ行ハムトセリ。島田

三郎氏等ノ激シキ反對論アリタレモ、農業黨ノ旺シナル結局修正案ノ成立ヲ見ルニ至レリ。次ニ印刷料紙ノ問題ニ至テハ端ナクモ貴衆兩院間意見ノ衝突ヲ起セリ。衆議院ハ印刷料紙ノ稅率ヲ原案ガ在來ノ關稅定率法中ノ最低標準ニ據リ從價一割五分ヲ從量稅ニ換算シテ每百斤壹圓六拾五錢トシタルヲ改正シテ、料紙ニ輕重ノ區別ヲ設ケ、新聞用紙一枚千〇八十六方、インチヨリ少カラザル者五百枚四十五「ポンド」以下ノ重量ヲ有スルモノヲ從價一割、從量稅ニ換算スレバ每百斤八拾七錢五厘、其他ノ印刷用紙ヲ從價一割五分ト修正セリ、然ルニ貴族院ハ之ニ同意セズ。從價稅ヲ改メテ更ニ從量稅ニ復活シ、新聞用紙ヲ每百斤壹圓拾七錢、其他ヲ每百斤壹圓六拾五錢ト修正セリ。於是乎、兩院協議會ニ附托シ、其結果折衷案トナリ、新聞用紙ハ從量稅每百斤ニ付壹圓、其他ハ壹圓九拾五錢ト決定シヌ。此ノ修正ニヨリ、新聞用紙ハ原案稅率ヨリ六拾五錢低減シ得タル代リニ、其他ノ印刷用紙ハ原案稅率ヨリ參拾錢ヲ加フルコト、成レリ。

斯クテ貴衆兩院ノ協議成立セシカバ、關稅定率法改正案ハ別ニ著シキ修正ヲ見ズ、大體ニ於テ原案ノ儘兩院ヲ通過シ、三月三十一日法律第十九號ヲ以テ其公布ヲ見ルニ至リヌ。

(三)

新關稅定率法ハ全文十二條、外ニ附錄トシテ輸入稅表ヲ添へ、稅目五百三十八(細目ヲ除キ)之ヲ十九類ニ分テリ。左ニ改正ノ要點ヲ摘錄スベシ。

第一、課稅法ノ改正、舊關稅定率法ハ原則トシテ從價稅制ヲ守リ、特ニ從量稅制ヲ便トスルモノニ限り別ニ之ヲ從量稅ニ換算スルコト、セシカ、新關稅定率法ニ於テ主トシテ從量稅制ニ椽リ、特ニ從價稅制ヲ便トスルモノニ限り之ニ據ラシメタリ。

第二、稅目ノ細別、舊關稅定率法ハ稅目ノ種別至テ粗大ニシテ、從テ課稅ノ不公平ヲ起セシカハ、新關稅定率法ニ於テハ歐洲前進國ノ例ニ倣ヒ、各品ノ精粗品質ノ如何ニヨリ細カニ之ヲ區分セリ。例令ヘバ舊輸入稅表ニアツテハ第七類穀物及種子ヲ大麥小麥豆類等漸ク六種ニ分チ其他ノ穀物及種子ハ單ニ其他トシテ一括セシガ、新輸入稅表ニアリテハ之ヲ十四種ニ細別セシガ如キ。又舊輸入稅表ニアリテハ手巾ノ如キモ單ニ甲乙ノ二種ニ大別シタルニ過ギザルニ、新輸入稅表ニアリテハ之ヲ第一種連製ノモノト第二種單製ノモノトニ大別シタル上ニ於テ更ニ第一種ヲ絹製、綿製、絹入等ノ點ヨリ三種ニ、第二種ヲ五種ニ細別セシガ如キ是レ也。

第三、報復稅制ノ制定、

新關稅定率法第四條ニ曰ク、本邦ノ船舶又ハ生産品ニ

對シ他國ノ船舶又ハ生産品ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生産品ニ對シテハ勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ有稅品ニハ本法ニ定メタル稅率ト同額以下ノ附加稅ヲ課シ、無稅品ニハ從價五割以下ノ輸入稅ヲ賦課スルコトヲ得。又第五條ニ曰ク、外國ニ於テ輸出獎勵金ヲ享クル物品ニハ、勅令ヲ以テ獎勵金ト同額ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得。是レ舊關稅定率法ニ無カリシ規定ニシテ、方今保護貿易熱ノ旺ナル、偶々我國ノ船舶又生産品ニシテ特ニ不公平ナル取扱ヲ享クルコト無シトセザレバ豫メ之ニ對スル報復ノ規定ヲ設ケ、又他國ノ輸出獎勵金ヲ無效タラシムルノ手段ヲ規定シ置キテ、以テ禍害ヲ未發ニ防グノ主旨ニ出ルモノ也。

第四、新ニ無稅トナリシモノ、

品 目

舊稅率

一、	屑皮(阿膠製造用ノミニ適スルモノ)	一割五分
二、	豚 毛	五 分
三、	獸 骨	同
四、	貝 殼	一 割
五、	青化剝篇亞斯及青化曹達	一割五分

六、カボック(植物纖維中)

七、蘭

八、襪、襪

九、屑 紙

十、安知母尼鑽(金屬鐵中)

十一、石 墨

十二、粘 土

十三、石 炭

十四、金 剛 砂

十五、本邦通貨

十六、屑玻璃及粉玻璃

十七、海 羅

十八、石 花 菜

十九、生 護 謨

二十、生儒答百兒沙

廿一、(X)バラフ井ンワックス

廿二、(X)生皮苧、髮斗絲及ビ屑絲

廿三、(X)屑護謨、及ビ故護謨

(備考)(X)ハ衆議院ニ於ケル修正ノ結果、無税品トナリタルモノ也

同

一 割

一 割 五 分

同

五 分

一

同

五 分

一 割

同

五 分

一 割

二 割 五 分

五 分

同

免 税

一 割 五 分

五 分

第五、新ニ有稅品トナレルモノ

品目

改正案稅率

新稅率

一、ゴニニー蠶

一 割

同 上

二、ゴニニー布

同

同 上

三、茶藍、茶篩、及茶箕

四 割

同 上

四、茶 鍋

三 割

同 上

第六、稅率ノ輕減セラレタルモノ

品名

舊稅率

改正案稅率

新稅率

一、蜂 蜜

一、五^割

一、〇^割

同 上

二、紅茶粉

四、〇

二、五

四、五^割

三、獸 筋

一、五

一、〇

同 上

四、鉛 粉

一、五

一、〇

同 上

五、白色亞鉛粉

一、五

一、〇

同 上

六、漁 網

三、〇

二、五

同 上

七、ランブ心

三、五

三、〇

同 上

八、アームサスペンダー及ストッキングサスペンダー

四、五

四、〇

同 上

九、(絹製及絹入ノモノ) 包鈕釦(同上)

四、〇

三、五

同 上

十、帽子金銀珠玉入、絹製、絹入

四、五

四、〇

同 上

十一、貴石(工ヲ加ヘザルモノ)	四、五	四、〇	同	上
十二、石 絨	一、五	一、〇	同	上
十三、雪母(板ヲ除ク)	一、五	一、〇	同	上
十四、ブーツプロテクター	三、〇	二、五	同	上
十五、絶縁電線	三、〇	二、〇	同	上
十六、アベンチユリンガラス	四、五	二、〇	同	上
十七、玻璃板 (厚四「ミリメートル」 チ超ヘ、一方「フー」 トチ超ヘザルモノ)	二、〇	一、〇	同	上
十八、置時計及掛時計部中ノ發條	二、〇	一、〇	同	上
十九、發 條	二、〇	一、〇	同	上
二十、鞣皮用樹皮	一、五	一、〇	同	上
廿一、デトチートル	二、五	一、五	同	上
廿二、印刷料紙 (一枚千〇八十六方「インチ」ヨリ少 カラルモノ五百枚毎ニ四十五「ポ ンド」以下ノ重量ヲ有スルモノ)	一、五	一、〇	同	上

第七、税率ノ引上 以上掲ゲタルガ如ク新關稅定率法ニ於テハ、新ニ多數ノ無

稅品ヲ造リ、又新ニ多數ノ減率ヲ行ヒタレドモ、通ジテ著シキ稅率ノ引上ヲ見タルハ、蓋フベカラザルノ事實也。元ト舊條約時代ニ於テハ平均五分稅ニシテ、明治三十年條約改正實施ニ際シ舊關稅定率法ヲ制定セシモ、尙ホ平均一割稅ヲ越ヘザリキ。然ルニ今新輸入稅表ヲ見ルニ、下ハ無稅ヨリ上ハ大體ニ於テ六割ヲ以テ限度トナ

シ、原料品ハ無稅又ハ五分乃至一割、穀物ハ一割五分、半製品ハ三割乃至四割、精製品ハ五割乃至六割トシ、平均約三割稅ニ當ル、サレバ此ノ如キ稅率ノ引上ニヨリ政府ハ新ニ貳百萬圓乃至貳百六七拾萬圓ノ增收入ヲ得ベシトイフ。

(四)

新關稅定率法ト舊關稅定率法トノ異ナル諸點ハ以上述タルガ如シ。次ニ新國定稅率ト現行ノ協定稅率(其內主ナルモノヲ選デ)トノ異ナル程度ヲ左ニ比較對照セム。

現行協定稅率

改正國定稅率

一、鐵 及 鋼	〇、七五 ^割	三、〇 ^割
甲、條 及 竿	〇、七五	二、五
乙、板	〇、七五	二、五
二、軌 條	〇、五	二、五
三、鐵 釘	一、〇	二、〇—二、五
四、電 線	〇、五	二、五
五、精 糖	一、〇	五、〇
六、紙 類	一、〇	一、五—三、〇
七、窓 玻 璃 片	〇、八—一、〇	一、〇—三、〇

由是觀之、精糖、軌條、電線ノ如キハ五倍、條鐵、條鋼、竿鐵、竿鋼ノ如キハ四倍、其他ノ物品ト雖モ大抵二倍三倍ノ増率ナルベシ。サレバ來ル可キ改正條約ニ際シ、獨、英、佛、ト最モ議論ノ中心トナルベキハ此等已往ノ協定稅率品ニ對スル稅率問題ナルベシ。此等ノ物品ハ將來トテモ此等ノ諸國ヨリ我國ニ對スル重要輸入品タルヲ失ハザルベケレバ、彼等ハ極力我稅率ノ輕減ヲ熱望スベキハ火ヲ觀ルヨリモ明ナルベシ。我國ニ於テ多少ノ讓歩ヲナサバレバ、或ハ條約不成立ニヨリ、關稅戰爭ノ開始ヲ見ルニ至ルヤモ未ダ知ルベカラズ。由來稅率ノ引上ニ際シ通商條約締結ノ行キ惱ムハ此ノ理ニ由ル也。

サレバトテ各國ノ強求ニ辟易シテ十分ノ讓歩ヲナシ、國定稅率ニ對スル多大ノ除外例ヲ設ケムカ、法律上ハ兎ニ角モ、政治上ニ於テ國民ノ意思ヲ輕視スル譏ヲ免レザルベシ。於是乎、輓近獨逸ノ爲ス所ニ倣フテ重要ナル稅目ニ就キ豫メ二重稅率 Doppeltariffヲ設クベシトノ議論ヲ唱フルモノアルニ至レリ。然レドモ元ト二重稅率ノ制タル議會ヲシテ天皇ノ大權ニ屬スベキ條約締結權ヲ制限セシムルモノタルノ嫌ヲ免レザルノミナラズ、獨逸ニ於テコソ日露戰爭ノ機ヲ利用シタル爲メ成功

シタレドモ、是レ迄西班牙ヲ始メ佛蘭西ニ於テモ、皆失敗ノ歴史ヲ重キタルモノナリ。蓋シ二重稅率ノ事タル、其最低稅率ヲ以テ豫メ讓歩スルノ意ト竝ニ讓歩スルノ程度トヲ表白シタルモノナレバ、相手ハ何レノ國タリトモ當然ノ事トシテ讓歩ヲ要求スベク、又其讓歩ノ程度モ最低稅率迄下ラザレバ承諾セザルベク、其要求ニ應ゼザルニ於テハ故意ニ相手ノ感情ヲ害スルコトナリ、遂ニ關稅戰爭ヲ招キ結局最低稅率ヲ破ラザルベカラザルニ至ルヲ以テ也。之ヲ以テ我國ニ於テ新ニ獨逸ノ前例ニ倣フテ二重稅率制ヲ採用スルハ、策ノ得タルモノニアラザルベシ

サレバ吾人ノ希望スル所ハ、相手條約國中談判ノ容易ナルモノヨリ先ヅ談判ヲ開始シ條約ヲ締結シ行キテ、其頑固ナルモノヲシテ遂ニ孤立助ケ無キノ地位ニ陥入ラシメ、不得止我國ノ提案ニ同意セザルベカラザルノ窮境ニ立チ入ラシムルニ在リ、次回ノ改正條約ニ際シ、談判ノ割合ニ容易ナルモノハ英米ノ二國ニシテ、談判ノ困難ナルモノハ獨佛ノ兩國ナルベシ。今ヤ英吉利ハ我同盟國ニシテ嘗テモ率先條約ノ改正ヲ諾シタル程ノ國ナレバ、四五ノ物品ニ就キ雙務的協定稅率ヲ諾スルニ於テ談判ハ容易ニ纏ルベシ。又米國ハ已ニ自カラ世界無比ノ高度ノ保護稅ヲ持スルノ國ナレバ他國ノ稅率ノ引上ヲ正面ヨリ攻撃シ得ルノ辭無ク、且ツ其國ノ與

論ハ次第二互惠條約締結ニ傾キ居レバ、我國ヨリ生絲、羽二重、花莖ヲ以テ、彼國ヨリ麥粉、石油ヲ以テ、相互ニ對等ナル互惠主義ノ協定稅率ヲ結ビ、其他ハ從來ノ通り條件付最惠國條款ヲ約定スルニ止ルニ於テ、別段ノ困難ヲ見ザルベシ。而シテ露西亞、奧太利、洪牙利、白耳義、和蘭、伊太利、西班牙等ノ諸國ニ至テハ、是レマデ通り單ニ最惠國條約ヲ約スルノミニテ異存無ルベシ。斯クテ獨佛ヲ除クノ外、一切ノ諸國ト一切ニ條約ヲ締結セム曉ニハ、獨佛ノ二國ハ自カラ孤立助ケ無キノ位地ニ陷入リ、我レヨリ強テ招カサルモ、彼レヨリ進デ條約ノ締結ヲ求ムベシ。事是ニ至テ我レノ要求ヲ貫徹スルコト太ダ容易ノ業ト云フベシ。

通商條約ノ締結ニ際シ、此ノ如キ筆法ヲ用キタルノ例ハ、近ク一九〇四年乃至一九〇五年ニ互ル獨逸新通商條約締結ニ就テ之ヲ見ル。是ヨリ先キ一九〇二年十二月獨逸ハ新ニ關稅定率法ヲ制定シ、一般ニ國定稅率ヲ引上ゲ、特ニ小麥大麥ヲ始メ主要穀物ニ就キテハ最高最低二重ノ稅率ヲ設ケ、大ニ農業保護ノ實ヲ舉ゲムト試ミルヤ、露西亞、奧太利等太ダ歡バズ、談判開始ノ曉ニハ獨逸ノ此ノ如キ傍若無人ノ舉動ニ對シ、一大打撃ヲ加ヘムトテ氣焔當ルベカラザルモノアリキ。元來獨逸ニ穀物ヲ輸入スル主要ナル國々ハ、露西亞、米國、奧太利、洪加利、アルゼンチン、共和國、及ビ

セルビヤ、ルーマニヤノ諸國ナリトス。而テ其内前三者ハ其國ノ強大ナルト其穀物輸入額ノ巨額ナルトニヨリ、談判上最モ困難ヲ感ズルモノナリ。サレモ米國トハ從來ノ行掛リモアレハ是レ迄通り單ニ最惠國條款ヲ約スルヲ以テ満足スベシトスルモ、露西亞竝ニ澳洪ノ二國ニ對シテハ是迄デ通りノ通商條約關係ヲ望マムト太ダ覺束無キノ事情アルベシ。於是乎、獨逸ノ採ルベキ政策ハ、一方ニ於テ穀物ニ就テノ二重稅率ヲ固守スル代リニ、他方ニ於テ工業品ノ輸入稅率ヲ輕減シ、澳洪竝ニ其他ノ中歐諸小國ヲ誘ヒ、以テ露國ヲ孤立ノ位地ニ立シムルカ、若クハ反對ニ露國竝ニ中歐諸小國ト結托シテ澳洪ヲ孤立助ケ無キノ悲境ニ陷入レテ之ヲ屈服セシムルカ、二者其一ヲ撰ブノ外アラザルベシ。然ルニ其ノ後獨逸ニ取テ一大幸運トモイフベキハ、一九〇四年春ニ至リ日露戰爭ヲ開キ、露西亞ハ連戰連敗ノ結果財政上軍事上共ニ頗ル窮境ニ陷入リ、陰ニ陽ニ他國ノ勢援ヲ欲スルノ情極メテ切ナルニ至リシコト是也。獨逸ハ透サズ此機ヲ利用シテ露西亞ヲ誘ヒ、案外容易ニ最低率ヲ以テ所望ノ通商條約ヲ締結シ、次イデ同年比較的困難少キ中歐諸小國即チ伊太里、瑞西、白耳義、セルビヤ、竝ニルーマニヤト略ボ同一ノ條約ヲ結ベリ。斯クテ獨逸ノ政策圖ニ當リ、澳太利、洪加利ハ今ヤ如何ニ强硬ノ態度ヲ以テ獨逸ニ臨ムトスルモ、孤立

助ケ無レバ到底其功無キヲ自覺シ、同年略ボ獨逸ノ要求ヲ容レテ通商條約ヲ締結スルニ至リス。

元ト獨逸ハ露西亞竝ニ澳洪ニ對シテ賣ル所多クシテ買フ所少キノ國也然ルニ尙ホ且ツ此ノ如キ筆法ヲ用キテ意外ノ好成績ヲ收メ得タリ。之ニ比スレバ我國ノ獨逸竝ニ佛蘭西ニ對スル關係ハ太ダ容易ナルモノニテ、佛蘭西ニ對シテハ賣ル所多クシテ買フ所少キモ、獨逸ニ對シテハ賣ル所少クシテ買フ所多キ國也。明治三十六年度ニ於テ佛蘭西ニ對スル我が輸出額ハ參千四百貳拾七萬八千餘圓ニシテ輸入額ハ五百拾萬八千餘圓ナルモ、獨逸ニ對スル我輸出額ハ五百拾八萬五千餘圓ニシテ輸入額ハ實ニ貳千六百九拾五萬九千餘圓ニ上ル。サレバ我レコソ彼ノ好得意ナレト、彼ハ我ニ取テ左ノミ好得意先ニアラズ。從テ彼ハ我ニ屈セザルベカラザルモ、我ハ彼ハ屈スベキ理由無シ。況ンヤ今日獨佛ヨリ我國ニ對スル輸入品ノ多數ハ皆ナ英、米、白、澳ニ於テ競爭品ヲ有スルモノナレバ、英、米、白、澳、其他ノ歐米諸國ニシテ已ニ我國ト條約ヲ締結セムニハ、彼等ハ自カラ死地ニ陷入ルコトヲ覺悟セザルベカラザルニ於テヤ、之ヲ要スルニ我國ノ對獨佛策ハ之ヲ獨逸ノ對露澳策ニ倣フニ於テ十分ノ成功ヲ收メ得ベキヤ必セリト云フベシ。萬一此後ノ談判ニ於テ英

米ト獨佛ト其地位ヲ換ヘ、此ニ易クシテ彼レニ難カラムニハ、彼レ此レ其政策ヲ轉倒スルモ亦可ナラズヤ。要ハ來ル明治四十四年ノ改正條約ニ際シ國定稅率ノ基礎ヲ動サズ、協定稅率ヲ約スルニ當テモ常ニ必ズ其雙務的ナルヲ期スルニ於テ努力シ、現行條約ノ不備ト不利トヲ一掃セムコト、吾人ノ切望シテ止マザル所也(明治三十九年七月九日ノ夜記ス)